

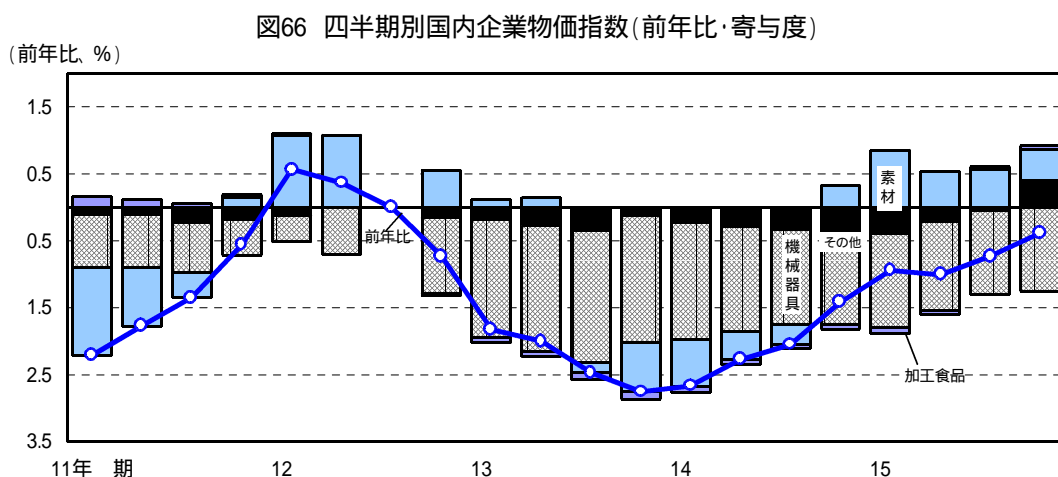
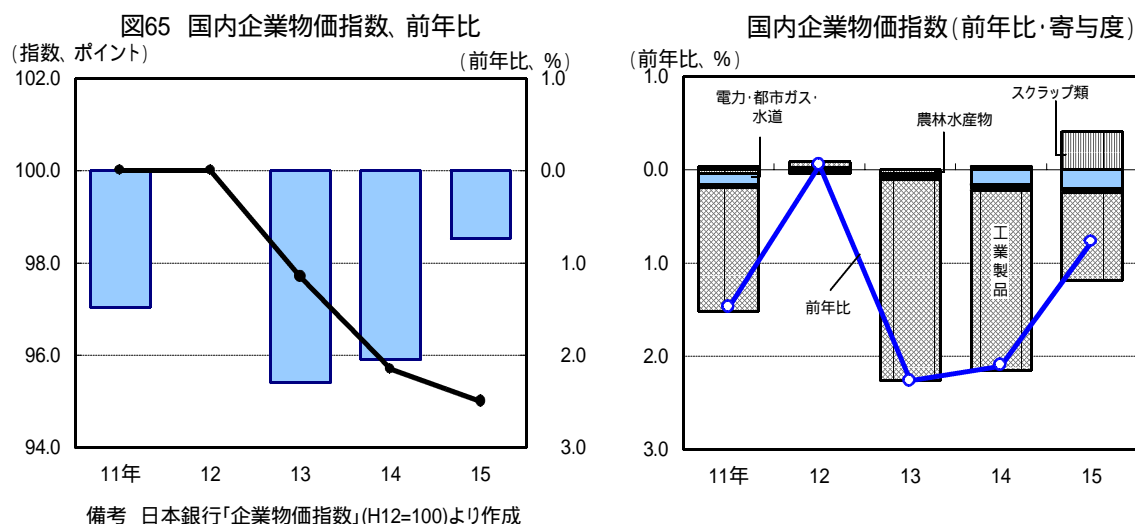
5 物価

(1) 国内企業物価指数

国内企業物価指数(総平均)は、平成15年は94.9(前年比0.8%減)となり、下落幅は縮小したものの3年連続で下落した(図65)。品目ごとの寄与度をみると、工業製品が13年、14年に引き続き15年もマイナスの影響が大きかったものの、鉄鋼やパルプ類の需要の高まりを背景にスクラップ類の価格上昇が全体のマイナス幅を縮小させている。

四半期別の動きをみると(図66)、12年第4半期以降13期連続で前年比マイナスで推移している。

項目別にみると、機械器具は12年第4半期以降一貫してマイナスに影響した。一方、素材は、14年第4半期以降プラスに寄与し、スクラップ類を含むその他も15年第4半期にはプラスに寄与している。



(2) 福島県消費者物価指数

平成 15 年の福島県消費者物価指数(総合)は 97.8 となり、前年比で 0.4% 下落し 5 年連続の下落となったものの、前年より下落幅が 0.7 ポイント縮小した(図 67)。

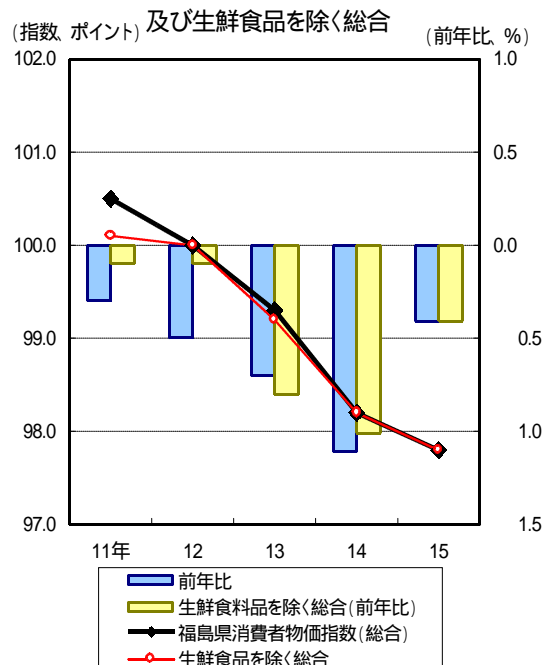
10 大費目で各指数の寄与度を費目別にみると、保健医療サービス、身の回り用品、たばこ、他の光熱(灯油)の値上がりにより、その他の費目はプラスに寄与したが、教養娯楽耐久財、家庭用耐久財、寝具類、教養娯楽用品などの値下がりなどにより、「教養娯楽」、「食料」、「被服及び履物」、「交通・通信」の費目はマイナスに影響した。

なお、「生鮮食品を除く総合」は 97.8 となり、前年比 0.4% 下落し 5 年連続の下落となったが、前年より下落幅が 0.6 ポイント縮小した。

さらに、四半期ごとに各指数の推移をみると(図 68)、総合では 11 年第 四半期から前年を下回る動きが続いている。平成 15 年について 10 大費目別にみると、第 四半期以降、医療費の自己負担の増加により「保健医療」が、身の回り用品やたばこの値上がりから「諸雑費」が上昇し、第 四半期には、設備修繕・維持の値上がりにより「住居」が 6 期振りに前年を上回った。また、原油価格の上昇傾向から他の光熱が値上がりし、第 四半期以降「光熱・水道」も上昇した。一方、「食料」は第 四半期以降、天候不順により生鮮野菜や穀類などが一部値上がりしたものの、魚介類、外食等が値下がりし、第 四半期以降前年を下回る動きとなった。「交通通信」は、15 年第 四半期に 10 期振りに 2 期連続で前年を上回った。また、「被服及び履物」、「家具・家事用品」、「教養娯楽」は前年を下回る動きが続いている。

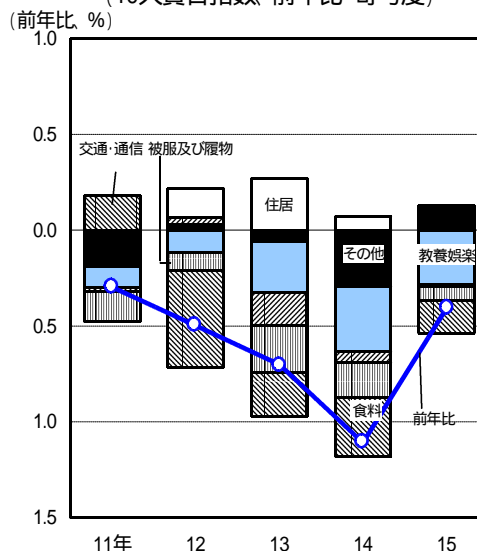
なお、「生鮮食品を除く総合」では、平成 15 年の第 四半期には穀類、設備修繕・維持等の値上がりにより、平成 12 年の第 一期以来約 3 年振りに上昇に転じた。

図67 福島県消費者物価指数(総合)



福島県消費者物価指数(総合)

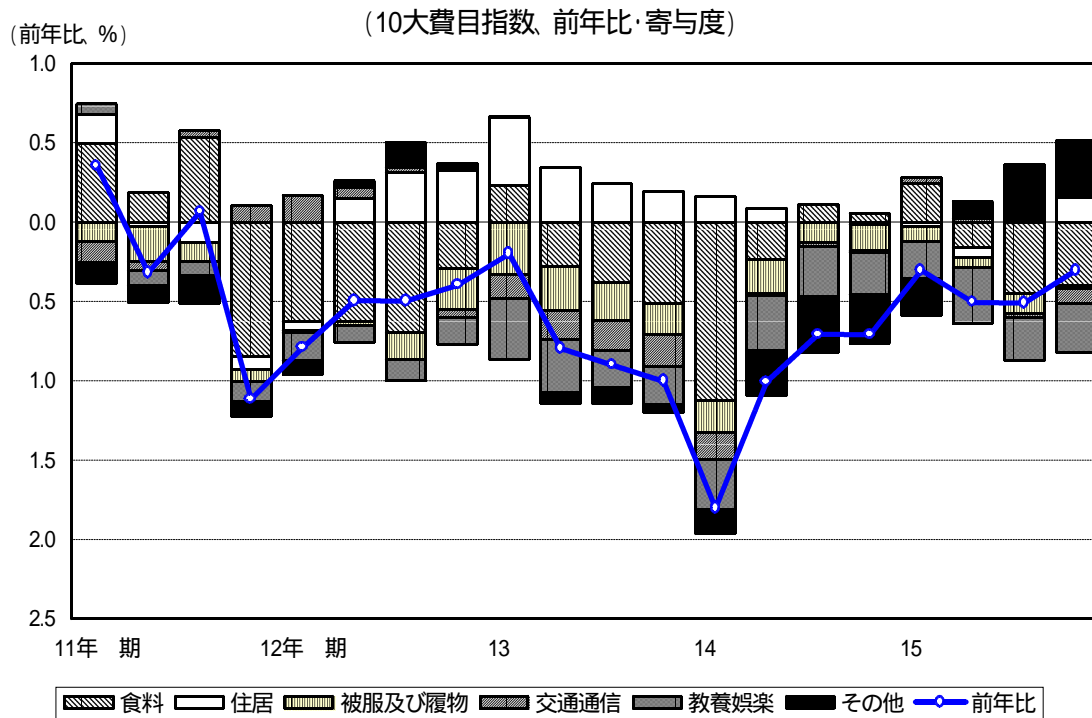
(10大費目指数、前年比・寄与度)



備考 1 福島県情報統計領域「福島県消費者物価指数」より作成
2 その他は、「光熱・水道」、「家具・家事用品」、「保健医療」、「教育」、「諸雑費」を含む。
3 H12=100

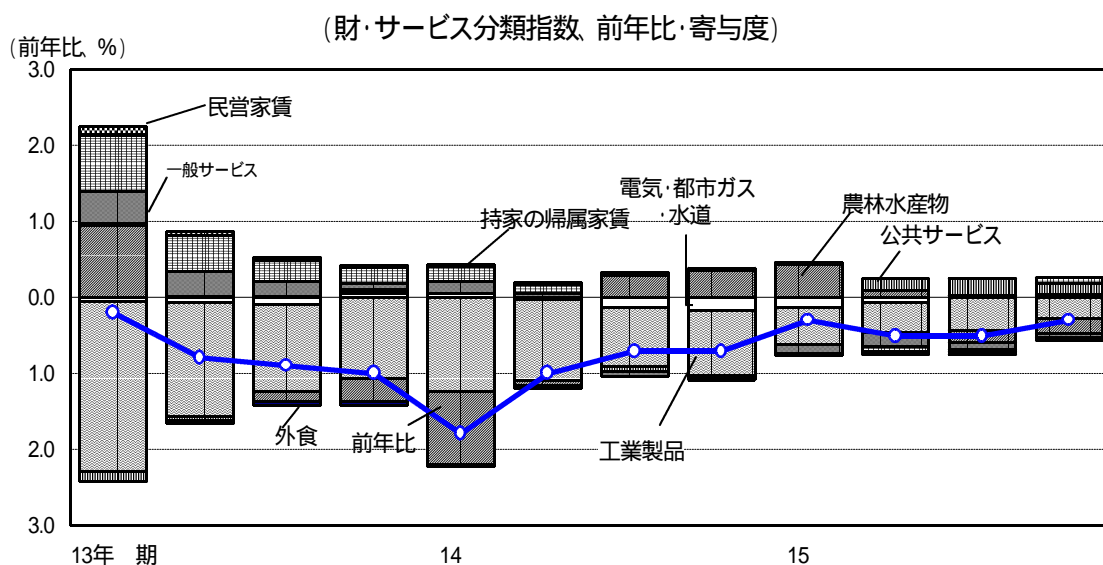
財・サービス別にみると(図 69)、15 年は、「工業製品」が原材料の値上がりから徐々に下落幅が縮小してきているものの依然年間を通してマイナスに影響した。サービス分類では、一般サービスで下落が続いている一方で、公共料金の値上げが相次いだことにより、「公共サービス」が年間を通して前年を上回り全体の下落幅を縮小させた。

図68 四半期別福島県消費者物価指数



備考 福島県情報統計領域「福島県消費者物価指数」より作成
 その他は、「光熱・水道」、「家具・家事用品」、「保健医療」、「教育」、「諸雑費」を含む。

図69 四半期別福島県消費者物価指数



備考 福島県情報統計領域「福島県消費者物価指数」より作成